# 更生保護施設における SST 中級研修会

１　日　時

令和７年９月４日（木）午後１時００分～同月５日（金）午前１１時４５分

２　場　所

アルカディア市ヶ谷７階「琴平の間ほか」（東京都千代田区九段北４－２－２）

３　研修員

更生保護施設の施設長又は補導職員・福祉職員　２５名

４　主　催

更生保護法人 全国更生保護法人連盟

５　概　要

当連盟では、平成２９年度から毎年度（新型コロナ感染症等で中止した年度を除く）更生保護施設の補導職員を対象として、ＳＳＴに関する基礎的な知識及び技術等を習得する目的でＳＳＴ研修を開催してきた。これまで研修に参加した職員は、１８０名を数えており、現在、特定補導の「C群」として登録されている施設は、約５０施設となっている。

また、当連盟で開催しているＳＳＴ研修に参加した方からは、実践上の悩みや疑問を抱え、更なるスキルアップを図りたいとの要望が寄せられている。

そこで、本研修においては、初級研修終了後のＳＳＴの実践を踏まえ、具体的な事例検討を通じ、処遇技法の向上を図ることを目的とする。

最初に、主催者である全国更生保護法人連盟稲葉常務理事（事務局長）から開式のあいさつ（右）があり、研修が始まった。

（講師）吉田みゆき：ＳＳＴ普及協会認定講師
河 島 京 美：ＳＳＴ普及協会認定講師
清 水 有 香：ＳＳＴ普及協会認定講師

【第１日目】

○講義〔琴平の間〕

＊吉田先生の進行により研修が始まり、各講師の自己紹介の後、吉田先生からホワイトボードに掲示した“練習に役立つポスター”のほか、配布された資料『ＳＳＴ（ソーシャル・スキルズ・トレーニング）のおさらい』を使用しながら、ＳＳＴとは何か（利用者の希望に基づき、認知行動療法の理論に基づいて実施される構造化された援助方法。身に付けた生活技能を般化、保持することで自信を回復していくことをめざす。一つの対人行動を小さな段階に分けてリハーサルし、実際の場面で実行してみる。練習ではロールプレイ、モデリング、フィードバックなどの技法を使う。）、社会生活スキル（social skills）について、ＳＳＴを学ぶ上で必要な知識〈鍵となる概念〉（リカバリーを目指す、ＳＳＴの８条件、）、ＳＳＴの実施方法について（基本訓練モデル、グループ・個人で行うＳＳＴ、個別ＳＳＴで工夫が必要な点）などについて講義がなされた。

講義終了後、３グループに分かれて会場を移動して研修・演習を行った。

講義風景

吉田講師による講義

○グループごとに研修・演習

（講師）：グループ１（雲取の間）：吉田みゆき先生

グループ２（吉野の間）：河島京美先生

グループ３（鳥海の間）：清水有香先生

が担当。

＊研修生はあらかじめ指定されたグループごとに分かれ、各講師から指導（自己紹介、ＳＳＴとの関わり）のほか、各施設での実践状況、ＳＳＴを行ってよかったと実感した事例などについて話し合い、テーマを設けてその場でロールプレイ等の演習を行った。

演習の内容からＳＳＴを実施するために必要な視点、実施する側としてできる工夫点など整理しながら、各講師は、それぞれの特徴を生かしながら各研修生に寄り添い、ていねいに指導された。

なお、各グループの会場入口には、事前に研修生に依頼したＳＳＴを導入している施設のパンフレットを参考までに掲示した。

１Ｇ演習（雲取）

２Ｇ演習（吉野）

３Ｇ演習（鳥海）

○全体での集合〔琴平の間〕

＊グループごとの演習終了後、全体で集合し、吉田先生の進行のもと、各グループの代表者から演習で話し合われた内容などについて報告が行われた。

１Ｇ発表

２Ｇ発表

３Ｇ発表

【第２日目】

○グループごとに研修・演習〔雲取・吉野・鳥海の各間〕

＊前日に引き続き研修生は３グループに分かれ、事前アンケートの内容などを踏まえながら疑問や悩みの事例を取り上げ、どのようにすればよいかについて意見を出し合いながら、意見として出たアイディアによってはその場で演習を実施するなど、適宜各講師からアドバイスを受けた。

１Ｇ演習（２日目）

２Ｇ演習（２日目）

３Ｇ演習（２日目）

○全体研修〔琴平の間〕

＊グループ別研修終了後、会場を移動して全体研修を行い、吉田先生の進行のもと、各講師からグループ内の雰囲気や様子など感想を交えながら、グループの受領代表者に修了証書が手交され、受領代表の各研修員からは研修の感想や今後のＳＳＴ実施に向けた意気込み、研修参加に対する謝意等が述べられた。

結びに、全国更生保護法人連盟稲葉常務理事（事務局長）から閉式のあいさつがあり、午前中をもって本研修は終了した。

修了証書授与（１Ｇ）

修了証書授与（２Ｇ）

修了証書授与（３Ｇ）

＊研修終了後のアンケートでは、今の気持ちを表すものとして、多くの研修員から「ためになる、満足、次回も楽しみ、仲間を感じた、面白かった、すぐに役立ちそう」などの回答が多数を占めた。

研修の日程や内容については、「他施設でのＳＳＴの実情を知ることができ、体験談を聞け参考になった」、「内容の濃い話し合いができた」、「丁寧で分かりやすかった」、「様々なＳＳＴの技法があり、参考になった」などの意見が多く、ＳＳＴの有用性や研修への充実感、満足感が高く、研修に対し高評価であった。

研修の実施期間などの持ち方については、中級研修においては３年に１回の実施回数を基本にしながらも、一方で２年あるいは１年に１回の実施回数を望む回答も見受けられた。

研修を通して勤務する更生保護施設でのＳＳＴを継続するための改善点などについては、「職員への意識づけや理解度の向上」、「職員間での情報共有」、「職員体制

の充実」などの回答が見られた。

その他、意見や感想等の自由記載としては、「楽しかった、有意義であった」との回答が多く、「いろいろなアイティアが浮かんだ」、「今までの取組姿勢を見つめ直すきっかけとなった」、「情報交換により違った視点に気づいた」、「ブロック単位での研修実施を望む」、「グループＳＳＴを推進していく」などの意見が寄せられた。

## 令和７年度更生保護施設におけるＳＳＴ中級研修会出席者名簿

| 番号 | 所管庁 | 更生保護施設名 | 役　職 | 氏　名 | 備考（グループ番号） |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 青森 | プラザあすなろ | 補導主任 | 工藤　豊 | 1 |
| 2 | 宇都宮 | 栃木明徳会 | 薬物専門職員 | 宇賀神　昌史 | 2 |
| 3 | 東京 | 斉修会 | 補導主任 | 鈴木　雅治 | 3 |
| 4 | 東京 | 敬和園 | 施設長 | 山崎　孝之 | 2 |
| 5 | 東京 | 両全会 | 福祉職員 | 中山　理美 | 1 |
| 6 | 東京 | 紫翠苑 | 福祉職員 | 吉田　千代美 | 2 |
| 7 | 新潟 | 新潟川岸寮 | 福祉職員 | 加藤　貴彦 | 1 |
| 8 | 静岡 | 少年の家 | 補導主任 | 遠藤　司 | 3 |
| 9 | 富山 | 富山養得園 | 補導員 | 北野　武晴 | 2 |
| 10 | 金沢 | 親和寮 | 施設長 | 円山　正三 | 3 |
| 11 | 福井 | 福井福田会 | 補導員 | 田中　孝典 | 2 |
| 12 | 名古屋 | 愛知自啓会 | 補導員 | 福岡　忍 | 1 |
| 13 | 京都 | 西本願寺白光荘 | 補導主任 | 髙山　佳純 | 2 |
| 14 | 大阪 | 和恵会 | 補導主任 | 白木　義久 | 1 |
| 15 | 神戸 | 播磨保正会 | 福祉職員 | 樋口　和子 | 3 |
| 16 | 広島 | 呉清明園 | 補導主任 | 中谷　育生 | 2 |
| 17 | 高松 | 讃岐修斉会 | 補導員 | 楠見　司朗 | 3 |
| 18 | 高知 | 高坂寮 | 施設長 | 平野　雅孝 | 1 |
| 19 | 福岡 | 福岡弥生寮 | 補導員 | 後藤　久明 | 3 |
| 20 | 福岡 | 福正会 | 福祉職員 | 久良木　圭太 | 2 |
| 21 | 福岡 | 恵辰会 | 補導員 | 輪竹　賢一 | 1 |
| 22 | 長崎 | 雲仙・虹 | 補導員 | 杉尾　勇哉 | 3 |
| 23 | 熊本 | 熊本自営会 | 薬物専門職員 | 辻　孝幸 | 3 |
| 24 | 大分 | あけぼの寮 | 福祉職員 | 重光　宏俊 | 2 |
| 25 | 那覇 | がじゅまる沖縄 | 福祉職員 | 當間　みどり | 1 |